

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和2年8月11日

事業所名 こどもリハスタジオ メロディー

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	その日の利用児を把握したうえで、畳、床、ベッド、クッションチェア等を使用し、調整している。	寝たきりの利用児と動きのある利用児と一緒に過ごす日は、活動スペースの不自由さを感じる日はある。 ⇒利用日の調整で、できる限り支援しやすい環境を整えられるようできるよう努めている。
	②	職員の配置数は適切である	8	0	安全に安心して過ごせるよう、職員配置の役割分担の予定を立て確認している。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	視覚情報からの情報が伝わりやすい利用児には、そのお子さんに応じた絵カード等を作成し、使用している。	利用児が重症心身障がい児対象とさせていただいているため、「本人にわかりやすく」という部分では、不明瞭である。障がいの特性に応じた配慮は、個別対応で他職種間で評価し、実施している。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	他職種間の視点から心地良く過ごせる環境に日々努めている。	子ども達の活動に合わせた空間(環境)となっているかどうかは、利用児の成長発達で常に変化していかなければいけない課題でもある。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8	0	ISO受審し、評価を受けている。また、毎月行う当施設全体朝礼において、目標設定と振り返りを行い、業務改善につなげている。	

	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	保護者等の意向を受容し、改善できるよう努めている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	ホームページにて公開している。また、保護者にも配布している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	0	第三者評価としてISOの認証を受けている。	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	外部研修は積極的に参加している。令和2年はコロナ感染対策のため外部研修が中止になったため、内部研修を年6回予定し、職員の研修の機会を確保している。	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0	他職種からの様々な視点から分析したうえで作成につなげている。	
適切な支援の提供	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	0	機能訓練士による一般的なツール（遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表）によるアセスメントを実施している。また、契約前アセスメントでは、保護者とのヒアリングに併せて、施設独自のツール（リハビリ問診	

				票、利用申込受付票等)を実施している。	
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8	0	半年に一度のモニタリングでは、ご家族と話し合いの場を持ち、職員の評価とあわせて具体的な支援内容を設定している。	自己決定ができない重症心身障がい児について本児の思いを汲み取った支援内容が設定できない現状がある。

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	0	支援計画の内容と、モニタリングの内容は常に確認できるようファイリングし、職員間で話し合いながら丁寧に支援を行っている。	
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0	他職種からの立案を積極的に取り入れ、プログラムを作成している。	個々それぞれ、他職種の思いがあり、全ての立案が一致しないこともある。 ⇒全職員の立案を傾聴し、チームとして活動プログラムが設定できるよう話し合える場を設け、調整できるよう努めている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0		月案、半年に1回、「個別支援療育課題計画」を作成し、固定化しないよう工夫に努めている。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8	0		計画を作成しているが、その日の子どもたちの心身状況によって行えない場合もある。 ⇒その日の心身状況に合わせた活動内容を即興で作成。提供していく。

	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	0	職員間で打ち合わせができるよう時間（10時から15分～30分程度）設け実施している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1		支援終了後の振り返りを行うことは、難しい現状である。 ⇒翌日の朝、打ち合わせし、伝達し合えるよう心がけている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0	記録は徹底し、子どもたちの気づきを日々伝え合い、職員間で周知できるよう努めている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	半年に一度のモニタリング以外にも保護者のニーズの変化に対応し早急に判断、見直すこともある。	
関係機関や保護者との連携関係機	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	個々に応じて、必要な専門職員に引率してもらい、会議に参加できるよう配慮している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8	0		今後も、関係機関による見学希望に対応したり、情報共有しやすい関係づくりに努める。
	㉓	（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合） 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	8	0		

関 や 保 護 者 と の 連 携	②④	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	8	0	保護者確認のもと「緊急対応マニュアル」を作成。全職員が周知し、協力医療機関と連絡体制を整えている。	利用児の主治医との連絡体制は十分でないと感じることもあるが、緊急時において保護者承認の上、連絡させていただき体制を整えている。
	②⑤	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0		移行支援の必要性があるときには、情報提供の書類を作成し、電話連絡等で情報共有、相互理解を図っている。特別な配慮が必要とする子どもたちには、介助方法、医療的ケア等の実践も行っていきたい。
	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0		
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	利用児が通う専門機関(児童発達支援センター)と連携し、支援内容についての相談をさせていただいたり、支援内容の見直し時に参考にさせていただくこともある。	今後も発達障がい関連の研修に積極的に参加することで、専門機関との連携をより繋げていきたい。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	5		職員間では、障害のない子どもと活動する機会を設定したいとの思いはあるが、感染症のリスクがあるため保護者からの意向をお聞きし承認をしていただいた上で設定している。 2019（平成 31）年度は

					実施していない。
--	--	--	--	--	----------

	⑲	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	3		
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	お迎え時に、他職種より伝え合えるよう配慮し、共通理解を図っている。なお、連絡帳では、日々の状況を知らせている。	
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	7	1		令和元年 11 月に「ペアレントトレーニング」の研修報告を兼ね、内部研修を実施し全職員で学びを共通認識している。さらに、保護者の対応力向上を図る観点から、意識をもって家族支援・ペアレントトレーニング関連の研修内容を設定し、内部研修に取り入れている。
保護者への説明責任等	㉒	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	契約時に説明をし、その後も問い合わせがあれば、早急に対応している。	
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	作成された「児童発達支援計画案」の説明を行い、内容を承認していただいた上で本計画をお渡しし、同意を得ている。	

③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	相談しやすい環境を設定し、他職種より、適切な対応ができるよう心がけている。	
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7	1	年1回保護者会を開催し、保護者同士の連携を支援している。	令和2年5月に予定していた保護者会は、コロナ感染対策のため、中止している。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	相談や、申し入れがあった場合には、管理者兼児童発達支援管理責任者から施設長に報告し、迅速に対応できるよう体制を整えている。	
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	「メロディーだより」にて活動概要を発信している。	
③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	保護者との同意書を交わしたうえで、全職員において徹底している。	
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	連絡帳の活用、当施設のアンケート調査、お迎え時の保護者との関わり等、配慮している。	
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	1	年一回、「凌雲夏まつり」を開催し、地域住民を招待している。	令和2年8月に予定していた「凌雲夏まつり」は、コロナ感染対策のため、中止している。

非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	「緊急対応マニュアル」においては一年に一回、保護者に見直しをいただき更新する。変更があった場合、早急に更新、全職員で周知する。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	毎月、実施されている災害対策訓練に参加している。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	服薬、てんかん発作等においては常に新しい情報を保護者から提供していただき確認している。予防接種においては、母子手帳を確認させていただき把握している。	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1		食物アレルギーの有無は確認している。現在、指示書の必要な利用児はいない。また当施設では食事を提供していない。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハット報告をまとめ、月1回介護安全委員会で報告、改善に向けて検討している。	
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	年二回、行っているグループ内での研修会に参加。虐待防止委員会も設置している。	



	④7	<p>どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している</p>	8	0	<p>保護者に丁寧に説明、了解を得たうえで、身体拘束に関する書面を作成、同意を交わしている。また、内容については3ヶ月に1回、職員会議にて定期的に内容を見直している。現在、児童発達支援については身体拘束の必要な利用児がいない。</p>	
--	----	---	---	---	---	--

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和2年月日

事業所名 こどもリハスタジオ メロディー

保護者等数（児童数） 1 回収数 1 割合 100 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	1					
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	1					
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	1					
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	1					
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	1					
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	1					
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	1					
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	1					
	⑨	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか				1		保護者から感染リスクが高いため、特に必要ではないとのご意見をいただき平成 30 年度から、交流の計画を設定していない。

保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	1					
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	1					
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	1					
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	1					
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	1					
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1					
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	1					
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	1					
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	1					
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	1					
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	1					
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか				1		施設全体で定期的に訓練を行っているお知らせを「メロディーだより」に記載していた

								が、十分周知できていない現状がある。今後、他の方法（お手紙等）で分かりやすく伝えられるよう改善する。
満足度	②	子どもは通所を楽しみにしているか	1					
	③	事業所の支援に満足しているか	1					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。